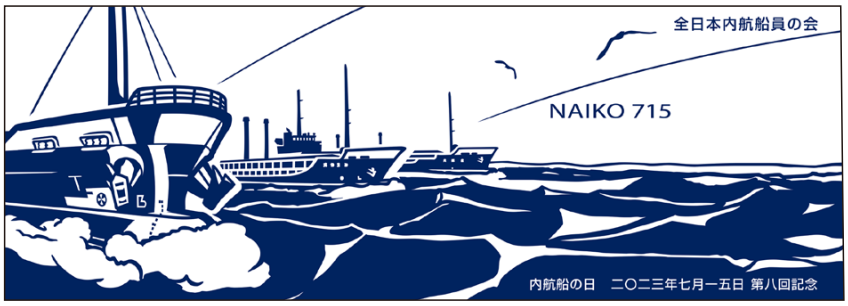
＜ 2023 年 7 月 10 日号 内航海運新聞掲載 ＞

今年のテーマは〈再起〉　カギは「人間味」

第8回「内航船の日」（7月15日）

内航海運新聞（令和５年７月１０日号）の記事を紹介いたします。 以下転載

全日本内航船員の会 事務局



第8回 内航船の日 記念手ぬぐい 2023

7月 15 日、記念日「内航船の日」がやってきます。今年で8回目を迎えます。

「内航船の日」は一般の方の提案から起こった記念日です。２０１５年、絵本作家の谷川夏樹さんは取材のために内航船に乗り込んでいました。こんなに頑張って日本の物流を支えている人がいるのに、内航船の存在を誰も知らない。しかも深刻な人手不足。谷川さんは憤りの中でツイッターに「7月 15 日を、７１５（ナイコ）で内航船の日と呼びませんか！」と発信しました。

「内航船って何？」、「産業基礎物資を運んでるのは船なんだ」、「シェア大きい！」、「人手不足らしい」、「どうして？」と話題は全国に膨らんでいきました。「内航海運を知ってもらおう」、「応援しよう」という思いが「内航船の日」の原点です。

その思いは次第にネットを飛び越えてオフ会も開かれ、「内航船の日」は日本記念日協会による認定にまで漕ぎつけます。公式な記念日となって今年で８回目を迎える「内航船の日」。われわれ海運世界にとっては、市民社会から贈ってもらった記念日で、これ以上に誇らしいことはありません。ＳＮＳによって一般の方が船員と交流できるようになって誕生した現代的な記念日。海洋立国日本として堂々と紹介できる特別な記念日と考えています。

毎年、 7月 15 日の記念日にはツイッターなどＳＮＳ上に、ハッシュタグ「＃内航船の日」を付けた投稿が溢れます。「内航船の日おめでとう！」と船員を労う内容のツイートが多く見られ、近年では、国土交通省海事局や日本海事広報協会などの公式アカウントからも「＃内航船の日」が付いた応援ツイートが発信されています。外航海運の「ＯＮＥ」や「マースク」のアカウントからも発信がありました。

今年は当事者である内航海運産業からも広く、市民社会からの応援に応えていただきたいところです。

幸いなことに、今年の２月に「内航船員教育関係者連絡会議（主催＝海技教育財団）」で講師を務める機会をいただきましたので、記念日「内航船の日」についても詳しく紹介することができました。講演内容は船員の離職原因やその解決策を提案するもので、代表的な関係者が横断的に出席されています。広く連携することで問題解決を図ることが目的の集まりですので、記念日の紹介にも最適でした。どうか、産業側からの「内航船の日」へのアプローチが進むことを切に願っております。よろしくお願いいたします。

私自身は、この記念日を船員の側から消失させてしまわないように、第１回目の「内航船の日」から記念日イベントで盛り上げています。都内墨田区の名物銭湯のロビーで「海から届ける写真展＠大黒湯」を開催し、毎年、訪れる多くの老若男女が、洋上の内航船員たちから届けられた別世界の写真に見入ります。

今年の写真展のテーマは「再起」。今、海運産業に限らず多くの分野で「再起動」の盛り上がりを感じます。コロナ禍を抜け出た勢いだけでなく、働き方改革への対応など「新常態」へ向かう変化の波もあります。チャットＧＰＴのような新しい技術を担いで得意になっている空気もあります。

しかし、その目的が、誰のために、何をやるのか、については何も変わらないのです。どんな方策も「人間味」が宿っていなければ「人」の役には立ちません。今までは置き去りにしてきたこと、直視せずにきたことを、改めて認識し直して解決できなければ、何度リスタートしても同じ壁に戻ってきます。浮き足立つことなく、過去の失敗までデータ化することが重要です。内航海運は「再起」という立ち位置から、ホンモノの再起動を見極めることが重要になります。

今回の写真展では船員たちの個性を前面に出す計画です。どこかで船を目にした時、話題を耳にした時に、そこに勤務している十人十色の船員の「人間味」までをもイメージしてもらえる展示を目指します。

約３００点の応募写真から厳選 18 点。アートな感性を持つ船員が、アートな自然の中で職人的世界を生きているムード。一見、機械化された世界に見られがちな船の世界に「人間味」を感じてもらいたいと思っています。

毎回制作している企画パネルでも「美しく、厳しい、自然の中の内航船物流」の景色をコラージュポスターで紹介します。どんな物資もアートな世界をくぐり抜けて市民社会の暮らしにまで届いているという物流のイメージを伝えます。

毎年、まだまだ「内航船」という言葉を初めて知る人が多いのですが、会場を出る頃には全ての方が内航海運を応援したいと思ってくれます。写真展は７月 15 日から 31 日までの開催です。

また、今年も好評の「記念日手ぬぐい」を製作しています。島国住民の暮らしと夢を安定的に支えてきた内航船団が並走する様子をデザインしました。手ぬぐい持って、湯船に浸かって、風呂上がりには（写真展で）「お船見」どうぞ。

海運関係の皆さんも是非是非お越しください。（了

＜「海から届ける写真展＠大黒湯」の開催概要＞

◇開催期間＝7月15日（土）～31日（月）※平日15時から翌10時まで、土曜日14時から翌10時まで、日曜祝日13時から翌10時まで。火曜日は定休。

◇開催場所＝大黒湯ロビー（東京都墨田区横川３―12―14）※東京メトロ半蔵門線、東武伊勢崎線、都営浅草線、京成押上線「押上駅Ｂ２出口」より徒歩６分。東京スカイツリーより徒歩10分

◇入浴料＝大人５２０円、中学生４００円、小学生２００円、幼児１００円